

# 建設工学実習

教科	工業	単位数	2	学科・学年	建設工学科建築類型3年生	担当	建築類型職員
使用教科書	「建築実習1・2」(実教出版)			副教材等	自作プリント		

## ◇ 学習の到達目標 ◇

- ① 建築に関する基礎的な知識と技術を総合的に習得します。
- ② 技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育成します。

## ◇ 科目の特色 ◇

2つの実習課題から選択して実習を行います。10名ほどで構成され、専門科目で習得した知識や技術を総合的に学習し、協調性・責任感など技術者として望ましい態度や習慣を身に付けます。各自の適性と進路に適応した実習テーマを選択する深化型の実習を実施します。

## ◇ 学習の計画 ◇

月	単 元 名	主 な 学 習 活 動
4   6	1. 施工管理実習 2級建築施工管理技術検定 (学科試験合格に向けて)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2級建築施工管理技術検定の学科試験の内容が理解できるように学習します。</li> <li>・ さまざまな道具や機械の名前や使用方法を実際に見て触れて体験しながら学習します。</li> </ul>
7   9		
10   12	2. 住宅設計実習 木造2階建専用住宅の自己設計 1・2階平面図・屋根伏せ図 立面図・断面図・各伏せ図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設計製図で取り扱いにくい自主設計に取り組み、その結果をデジタルデータ化するCADソフトを利用したプレゼンテーション方法も合わせて学習します。</li> </ul>
1   2		

## ◇ 評価の観点・方法 ◇

評価は、次の四つの観点から行います。

関心・意欲・態度	実習に関心をもち、知識と技術の習得に向けて、意欲的に取り組む態度を身に付けているか。
思考・判断・表現	実習に関する思考を深め、さまざまな知識と技術を活用して、理論的に判断する能力を身に付けているか。
技能	実習を的確に理解し、その成果を他に伝えることができるか。
知識・理解	実習の各分野に関する基礎的な知識と技術を身に付けているか。

このため具体的には、次のものを対象とします。

- ① 学習態度 ② 製作作品 ③ 実習レポート ④ 自己評価・授業評価の際に記入したプリント  
また1年間の評定は、前期・後期の年間を通して、総合的に判断して決定します。

## ◇ 担当者からのメッセージ ◇

実際の作業を通して、建築の知識や技術を学びます。さまざまな道具や機械の名前や使用方法を実際に見て触れて体験することが大切です。安全・服装・整理整頓に気を付けて、意欲的に取り組みましょう。